

2018年7月21日(土) 15:00-17:00

参加：15名
司会・文責：堀越

1. 概要：

- ・初参加者2名を含む総勢15名で、主に、給料や休日は私達にとってどういう価値があるかを話し、考えた。

2. 対話：

(0) 対話前の立場の確認：

- ・対話前に参加者の立場を確認しておくため、どちらが大事と思うかを確認し、次の結果となった：

①給料：1名、②休日：5名、③分からない・保留：8名。

(1) どちらがどうか？

- ・給料と休日とは比べられない。稼いだ給料と比べると宝くじに当たるような棚ぼた的なお金、休日と比べると労働日ではないか。
- ・就職、転職、現職処遇を考えると給料と休日どちらにより価値があるかと考えることはないか。
- ・どちらかと問われれば、休日と答える。理由は、体を休めるという意味の休養は必ず必要となるから。但し、休日が沢山あれば何をするにもお金が必要となるので、結局はバランスが大事かなと思う。
- ・仮に給料と休日のどちらもこれ位あればいいと思える程度はある前提で、どちらがより欲しいかと考えると、休日が欲しい。給料は必要分だけあればいいが、休日はあればあるだけ欲しい。極端に、①給料は沢山もらえるが休日はない場合と②給料は生きるのに最低限だけ休日はある場合を考えると、給料は我慢ができるが休日がない状態には耐えられない。その場合は山に籠って生きて行きたい。
- 休日に何がしたいか？ 仕事の時間は会社の業務のために、自分のやりたいことができる訳ではない。自由にやりたいことは一杯ある。日頃溜まった家事、本を読む、哲学カフェに行く等いくらでもある。
- ・バランスが大事という点はそう思う。一方で働き方考えるとき、雇用された身分で仕事では自由にやりたいことができない立場と別に、(アーティストチューブのように夏の季節には無性に創作意欲が掻き立てられて) 仕事でやりたいことが沢山ある人にとっては休日よりも仕事をしている時間の方が大事なはずで、そういう観点もしっかり考えておきたい。

(2) 思考実験

- ・給料と休日共にこれ位あればいいという条件を念頭に、加えて次の2つの条件ではどちらを選ぶか？
- ①給料は変わらず休日が年間100日増える。②休日は変わらず給料が年間500万円増える。
- ・時給が違うから少し条件を変えた方がいい。
- ・次の場合はどうか。①給料は変わらず就労日数が半分となり休日倍増、②休日は変わらず給料倍増。
- ・休日を増やす。今の給料が維持できれば暮しは困らない。仕事終わりの金曜夕方飲むことが楽しみである。休日が増えれば休前日夕方に仲間と一緒に飲む機会を2回作れる。自分にとって価値がある。
- ・元の問いには、時給が一定という前提が含まれているように思うが、今の思考実験ではそれぞれ時給が2倍へ変化していて乱暴ではないか。時給を一定とした方がいいか変えてもいいか。
- ・蓄えがあるなしでも変わるがどうか。考えなくとも良いか。

(3) 一方の掘り下げ：

- ・働き方改革の流れの中で本当に労働者側が休日等を決められるようになれば、今の議論内容も自分事として考えなくてはならない。そのことを可能にするためには、同一労働同一賃金も整備要と思う。
- ・必要最低限の給料を超えるから初めてできることは何か？ そのお金がないとできないことは何か？
- 生きるか死ぬかの次に、お金がないとできない、やりたいことは、海外へ行く場合の飛行機代である。
- ダンスのレッスン代毎月2〜3万円は必ず必要で生活に組み込まれているが、これ以上は要らない。
- ローンを返す。応援する政治家等の必要とする人へ寄付する。そのためお金が必要。お金は力である。
- ・必要は2階層。本当に命を繋ぐため必要な階層と自分らしく文化的に生きるため必要な階層。生物学的に切り詰めて生きるだけではつまらないので、個人が自分らしく生きる階層は必要である。
- ・就職では仕事のやり甲斐、法人の評判、労働環境等を総合的に見る。給料と休日だけでは決めない。
- 休日何かするにもお金が必要。お金があっても時間ないと思えない。どちらか一方の限定は無理か。
- ・休日の考え方が変わる。若い頃には休日は余暇に専念したが最近では心身を休めて仕事に集中するために取る休日も増え、仕事に対する真摯度が増してきた。仕事と休日を分け切れない。
- ・お金の考え方も変わる。お金は遊びのためだけに使ったが、仕事やキャリアに繋がる自己啓発に徐々に使うように変化する。自分のためから他人のためへと使い方が広がってくる。
- お金は欲しい物やサービスがなくても将来必要なことが増えるときの不安を減らせるから沢山欲しい。
- お金は沢山ある方が不安。大金をどう扱うか分からない。沢山ある程に(暴落したら等)心配になる。
- ・「管理できない金は持てはけない」と親から言われ、10億円位多過ぎるお金は不安で要らない。
- ・お金はその時点で決めてなくとも、蓄えておける可能性や力なので、沢山欲しくなる。
- ・仮想通貨で儲けたお金等は汗水垂らしたお金と違って、浪費してしまうから駄目である。
- ・労働なしに支給される最低給付で毎日が休みでも休日に拘るか。労働したい欲求は出てこないか。
- 勘弁して欲しい。最初はいいがそのうち飽きる。人のために働くことによる満足感はある必要である。
- 毎日が休日でもいい人もあると思うが、自分は働いて社会との繋がりを得たい。お金はあり過ぎると不安な一方、ないと不安なので、扱いが難しい。お金を多く持つ人が有利という社会に納得いかない。
- ・お金＝贅沢というイメージがあって沢山使うと罪悪感を抱いたが、お金を通して個人から社会へ接触をとることもできる。お金は、贅沢ではなく、社会へ接触するためのエネルギー源とも捉えられる。
- ・お金も休日も共通しているのは、自分が自由に何か行動するための道具。一方で、お金はそのときに使い道を決めなくても当面冷凍保存できるが、休日はその日には何をするか決めないとならない。
- ・「お金は冷凍保存可」に違和感ある。沢山は使い道が分からないので要らない。できる人にあげる。
- ・休日に自己啓発を否定しないが、休日は仕事を離れて本当にやりたいことをする方が健全ではないか。休日に仕事関連のスキルを蓄えることは、将来に備えてお金を貯えることと根源的には一緒である。
- 仕事は会社や社会と考え方を合わせる必要があり、対価として給料をもらう。休日は唯一仕事と拮抗するものであり、ないと社会と自分の境目がなくなり自分らしさを見失う。オンとオフは必要である。
- 職業＝趣味の場合(例：ミュージシャン)は、休日に趣味で他者の音楽を聴くし、いいではないか。
- 二項対立化は職場環境による。仕事で一日箱の中(部屋)にいれば山登り等で休日は外へ出たくなる。
- 休日部下が自己啓発で研鑽すれば業績も上がるかもしれないが、社長視点では如何なものかと思う。

(4) 対話後の立場の確認：

- ・最初の分類に沿って参加者に再度立場を訊くと、①：2人、②：6人、③：6人、という結果となった。

3. まとめ：

- ・対話前と比べて終了時には、保留や分からない人の割合が減ったようである。対話中に紙幣硬貨の現形態への妥当性への問いが挙がったが深める時間がなくなってしまったので、読者の黙考に委ねたい。

以上